

以下の問題〔I〕は必須問題です。
全員が解答してください。

〔I〕 次の文章を読んで、後の問に答えよ。なお、本文上段にある①等の丸数字は段落番号である。

① 神は目に見えないが、見えない神を感じることはできるし、人は神に祈るとき、何らかのイメージを思い描くものである。こうしたイメージを表現することが芸術の起源でもあった。もともと豊かな宗教芸術を発達させたキリスト教の場合、神の姿は聖像(icon)として早くから造形化されてきた。A、旧約聖書のモーセの十戒では、偶像(idol)を作ることも拝むことも禁じており、キリスト教は偶像崇拜を禁じてきたため、それはあくまで偶像ではなく、聖像であるという理念に基づいていた。

② 聖像はそのものに神が宿っているのではなく、神の姿を写しているにすぎず、それを通して神を拝むための窓、つまり神をしのぶよすがとなるものである。聖像に向かって手を合わせても、それは像に対してではなく、聖像の背後にいる神に手を合わせているという理屈である。

③ これに対し、仏像はそのものが信仰の対象となる偶像であり、像には魂が入っているとされている。仏教は偶像を認め、キリスト教は偶像ではなく聖像を用いるのだが、両者はともに、像を用いて信仰し、美術表現を発達させてきたのである。

④ インドのコーシャンピーのウダナヤ王は、A史上最初の仏像を作らせたと言われ、それは釈迦にまつく似ていなかった

B、憂悩を取り除く霊力を持っていたという。この逸話は、キリスト教においては、キリストが自らの顔を転写した布をシリアのエデッサのBアプガル王に送って王の病を癒したという「マンディリオン(聖顔布)」を想起させる。この布こそがキリスト教のアイコン(聖像)の起源となったとされているが、ウダナヤ王の仏像もマンディリオンも、神の代替物が霊的な力を持つ

つという共通性が見られる。

⑤ しかし、マンディリオンのほうは、人の手を経ずに、転写によって生まれたという点が重要である。偶像を作ること厳しく禁じたキリスト教では、人の手で作った像は何であれ、偶像に陥りかねない危険性ははらんでおり、聖像としての正統性を得ることがなかった。人の手を経ずに生まれた画像(アケイロポイエトス)が、マンディリオン、スタリウム、ヴェロニカ、ケラミオンといくつもの名前を持って伝世し、崇敬の対象となってきたのはそのためである。画家の創意なしに画像が生まれたことは、キリストが人間の妊娠を経ずに生まれたことのアナロジーでもあった。

⑥ Cそれらは、原型の聖性を失わぬよう忠実にコピーされなければならなかった。こうして生まれたアイコンは、6世紀後半以降、その制作と崇敬が一般化した。それらは神を見る窓であるがゆえに、教会や祭壇上で公開されていた。ヴァチカンにあるマンディリオン(聖顔布)を見ることが、信者にとってはローマにあジュンレイに来る大きな目的となっていたし、今でも、スペインや南米では、祝日に人々が、聖母や聖人の像をかついで街を行進するのがよく見られる。

⑦ これに対し、仏像は魂や神性が宿っているがゆえに、あえて目にふれなくても、そこに安置されているというだけで、その寺院や場を聖化するものであった。わが国には、数年に一度、あるいは数十年に一度しか公開されない秘仏が多いのはそのためである。C三井寺では、《黄不動》や《如意輪観音菩薩座像》をはじめ重要な諸像の多くは30年あまりに一度しか開帳されず、最近、展覧会で一堂に公開されて話題を呼んだ。常に秘匿されていて、それらに対する信仰はいささかも衰えない。むしろ秘仏であるがゆえに、像の神秘性を高めているようである。

⑧ 16世紀にわが国に渡来したザビエル以下多くの宣教師たちは、あまたの聖像を携えて来て、宣教に絶大な効果をもたらした。やがて全面的に信仰が禁止されたが、禁教下になっても、一度燃え盛ったキリスト教信仰はすぐには消えず、辺境地域において細々と続いた。いわゆる「かくれキリシタン」である。厳しい環境のもとで信仰を維持させる原動力となったのは、聖母を中心とするアイコンの存在にほかならなかった。

⑨ 長崎県生月島では、実に三百年にわたってかくれキリシタンが信仰を守り続けた。彼らは納戸神、あるいは「お掛け絵」とよ

ばれる聖画を祀^{まつ}っていた。露見したら死罪を免れない状況下で信仰を守りぬくには、触^a知的な事物にすることが必要だったのかもしれない。

- ①⑥ それらは通常は納戸の櫃^{くろ}に隠されており、オラシヨ^い(キトウ文)の唱えられる儀式や四旬節などの祭日に密に取り出されて膳や盆の上に安置され、礼拝された。信徒たちは、神棚や仏壇を祀るほか、天照皇大神と書いた掛物や恵比寿や大黒を掲げたりしているという。これら「表神」のほうは当初はカムフラージュであつたろうが、次第に「隠された神」と習合してしまつたのだろう。そして、隠された神のほうは秘仏化し、畏怖すべき靈威が付与された呪物として顕現していたのである。

- ①① 信徒たちは、古くなつたお掛け絵を「御隠居様」といつてしまつておき、新たに描き直す(「お洗濯する」)習慣があつた。取り締まりの目を逃れるために、それらを壺^はや箱に収めて土中に埋めることが多かつたというが、こうした状況では紙や布はすぐに劣化し、たびたび描き直す必要に迫られた。何世代にもわたるこうした描き直しの過程で、図像は和様化し、様式は西洋風から民画風になつていった。その結果、原型からあまりにもかけ離れてしまい、今や主題すらわからなくなつたものが多い。

- ①② しかし、生月島の信徒たちは、画像^Dの当初の主題を知ることなく、また知ろうともせず、呪術的な力を持つその画像の前にひたすら頭を垂れ続けてきたのである。信徒たちにとっては、図像^Eの正統性や意味よりも、画像の歴史やユイシヨ^うこそが重要であつた。弾圧をかいぐつて父祖から継承されたものであれば、画像は靈性^{いせい}を発揮しえたのである。

- ①③ つまり、かくれキリシタンの聖画は、原型としてのアイコンに様々な外部の土着的イメージが混入し、すっかり変容してしまつたが、長期間にわたる継続的な秘匿と展示の繰り返しによって聖性^{せいせい}を維持させてきたものといえるだろう。信徒たちが唱えるオラシヨには、かすかにグレゴリオ聖歌のセンリツ^{えん}がうかがわれるという。

- ①④ 同じように、彼らの聖画にも西洋的な原画が変容した過程をうかがわせるものもある。たとえば、いくつも残っている《聖母子と二聖人》(図)は、南蛮美術の名品《ロザリオ十五玄義図》の図様をとどめており、当初の図様が特定できる希少な画像である。本来は、聖母子の下にイエズス会の二大聖人であるロヨラとザビエルが配された図像であつたが、それが転写を繰り返され、聖人は中国人のようになり、聖母子はすっかり和様化している。幼児イエスが持っていた花が風車のようになつてし

まつているのがおもしろい。

- ①⑤ この画像のように、多くは発酵^Fとでもいうような特異な変質を遂げており、突然変異のような画像もある。そこでは聖母マリアが創造主デウスと習合していたり、キリスト教主題を持つとはとても思えぬ画像が礼拝対象となつていたりする。かくれキリシタンという特殊な民俗宗教が生み出した固有の芸術、その信仰と同じく複雑に屈折した歴史を背負い、重層的な要素を宿した聖画像として世界でも類例がないだろう。こうした画像は、長崎県生月島では「お掛け絵」として儀式の際に祭壇に祀られ、今なお信仰空間に息づいている。



- ①⑥ 画像そのものに神が宿る偶像を作り、その偶像を秘匿することによって靈性を保つという習慣はきわめて日本的なものである。しかし、それを儀礼のたびに祀り、祭壇に安置して礼拝するという点には、キリスト教のアイコンの機能の名残をとどめているかもしれない。密やかにではあつても、定期的に画像を目にすることで、信者たちは神の顕現を感じ、信仰心を新たにすることができたのであろう。秘匿と顯示との交代は、禁教下といったカコク^おな環境が必然的にもたらしたもののだが、長きにわたつて信仰の火^bが絶えなかつたのはそれゆえではなからうか。

(宮下規久朗『裏側からみた美術史』による)

(注1) ウダナヤ王―紀元前七世紀頃のインド古代の都市コーシャンビー(橋賞弥)の王。

(注2) アブガル王―この文章においては、エデッサ(現トルコ領)のアブガル五世(紀元前後)。初期にキリスト教徒となった諸王の一人。

GD33

問一 本文中の空欄 A C に入る最も適切な語句を、次の各群の①～⑤からそれぞれ一つずつ選べ。

- | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|-----|---|---------|---|-------|---|--------|---|------|
| A | 1 | ① | その後 | ② | それゆえ | ③ | とりわけ | ④ | とにかく | ⑤ | ただ |
| B | 2 | ① | ように | ② | にもかかわらず | ③ | ということ | ④ | ことをもって | ⑤ | はずで |
| C | 3 | ① | じつは | ② | たとえば | ③ | とはいえ | ④ | 一方で | ⑤ | なぜなら |

問二 本文中の―線A「史上最初の仏像」と、―線B「マンディリオン」について、これらの共通点として最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選べ。

4

- ① 両方とも偶像である点。
- ② 両方とも当時の王侯による関与があった点。
- ③ 両方とも聖像である点。
- ④ 両方とも人の手を経ず転写によって生まれた点。
- ⑤ 両方とも魂が入っているとされた点。

— 6 —

問三 本文中の―線C「原型の聖性」に関して、本文中に述べられた内容と合致するものはどれか。次の①～⑥から適切なものを二つ選べ。なお、解答の順序は問わない。

5

6

- ① 原型の聖性をもつ画像は、いくつもの名前をもって伝世している。
- ② 原型の聖性ゆえに、聖像のみが霊的な力を發揮する。
- ③ 原型の聖性は、聖像をつくる際の転写で消滅する。
- ④ 偶像は、原型の聖性を有している。
- ⑤ 画家の創意により、原型の聖性が確保される。
- ⑥ 聖像は、原型の聖性を損なわないように模写される。

問四 本文中の―線a「触知的な事物にすぎることが必要だった」とあるが、どういうことか。説明として最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選べ。

7

- ① 宗教の体系を、観念よりも触覚で理解するのが容易で合理的であったということ。
- ② 即物的な方法で信仰を維持せよとの教えに従う必要があったということ。
- ③ 弾圧のストレスのもと、観念よりも具体的な物を通して聖性を実感する必要があったということ。
- ④ 宗教の体系を物質的実在で理解することが必要だったということ。
- ⑤ 信仰の確立と維持のため、在来の仏教などと比較するための資料が必要であったということ。

— 7 —

GD33

問五 本文中の——線D「画像」、——線E「図像」とあるが、本文に即したこれらの説明として最も適切なものを次の①～⑥から二つ選べ。なお、解答の順序は問わない。 8 9

① 画像は文化的背景を内包する確立された形式であり、図像として表面的に模写されるが、模写した図像は意味や主題が喪失されることがある。

② 画像は正統性が込められた観念を伴い継承され、図像は父祖からうけついだ歴史をもつ呪物的な「もの」である。

③ 画像は一つの宗教的文脈の象徴であり、図像は画像の対象や登場人物のみを取り出し描写されている。

④ 図像は正統性が込められた観念を伴い継承されるものであり、生月島のおかけ絵は、父祖から受けついだ歴史をもつ呪物的な画像である。

⑤ 図像は一つの宗教的文脈の象徴であり、画像は図像の対象や登場人物のみを取り出し描写されている。

⑥ 図像は文化的背景を内包する確立された形式であり、その図像の表面のみをなぞった画像は意味や主題が喪失されることがある。

問六 本文中の——線F「発酵」とあるが、どのようなことを「発酵」と表現しているのか。説明として最も適切なものを次の①

～⑥から二つ選べ。なお、解答の順序は問わない。 10 11

① 複雑に屈折した歴史のなかで、歴史研究から常に見落とされ、秘匿されたなかで知られざる意味を獲得したこと。

② 古くなれば新たに描きなおすという人手による介入で、徐々に在来の仏像信仰と同化した、その転化のこと。

③ 暗所にて保存し、そうして時おり取り出し空気にあてるといふ、発酵食品の取扱いと似ていること。

④ 古くなれば新たに描きなおすという人手による介入で、画風が徐々に確実に変容させられた、その変質のこと。

⑤ 複雑に屈折した歴史のなかで、習合や独自の解釈を経て、その主題が特異な変質を生じたこと。

⑥ 秘匿と顕示の繰り返しという人為的行為で、信仰者たちにより身近な発酵食品のたしなみと同列に考えられたこと。

問七 本文中の……線b「長きにわたって信仰の火が絶えなかったのはそれゆえ」とある。なぜ、「それゆえ」と筆者が考えるの

か。その理由となっている日本における宗教の様相を説明した本文の段落で、最も適切なものを①～⑤段落以前の段落から選べ。

12 13 段落

問八 本文中の……線「神性」(⑥⑦段落)、「霊性」(①②段落)、「聖性」(①③段落)という三つの言葉について、次のア～カのう

ち、本文の内容と合致するものには①を、合致しないものには②をそれぞれマークせよ。

ア 聖性は、聖像、偶像に付与される一般的特質であり、神性は実体としての神仏の存在を含意している。 14

イ 神性は、聖像、偶像に付与される一般的特質であり、聖性は実体としての神の存在を含意し、霊性は聖性から発される神性の証である。 15

ウ エデッサのアブガル王に送られた布に、聖性はない。 16

エ 聖像は神性を有するとされる。 17

オ 長崎県生月島の「お掛け絵」は原型である聖画の聖性をそのままに保持している。 18

カ 日本では、霊性は、神の宿る偶像を秘匿することにより維持される。 19

本文中の〰線X「アケイロポイエトス」について説明する次の文章を読み、続く(1)～(2)の間に答えよ。

アケイロポイエトスとは、本文の説明にあるとおり「人の手を経ずに生まれた」宗教的実在物をさしている。現実世界とは別に神の世界が存在し、現実世界は神の世界の不完全な影に過ぎないとする考え方がある。アケイロポイエトス、つまり人の手によらぬものたる、マンディリオンおよびそれに連なるイコンの機能は、本文の説明どおり、不完全な影に過ぎない現実世界から神を見る窓であり方法である。キリスト教においては、その窓の作成に、不完全な影の世界の住人に過ぎない人の手が介入してはいない／ならないという観念的な規範が成立している。一方、日本の「かくれキリシタン」の聖画は、本文によれば「窓」ではなく繰り返し人の手を経た神の依代であり、形式上「人の手が介入してはならない」という規範を満たしていないことになる。もとは西洋から伝来した聖画にこの違いが生じた理由は、おそらく日本では

イ。

(1)

——線A「神の世界の不完全な影」という言葉を用いてキリスト教における偶像の扱いを説明したものとして、最も適切なものはどれか。本文①⑤段落をふまえて、次の①～⑤から一つ選べ。

20

- ① 人の手によらない聖像もまた、神の世界の不完全な影であるので、転写という聖性維持のための規範を容認すると、理論上神の世界を限定してしまい、教義の規定する神の真の姿を見失う、その恐れから偶像を作することを厳しく禁じた。
- ② 人の手で作った像(偶像)がマンディリオンと同等の権威を有すると、量産が可能であるから宗教的権威が希釈される、との恐れから、現世が神の世界の不完全な影でしかない、そして偶像は影であり価値がないとして偶像を指弾した。
- ③ 人の手で作った像(偶像)もまた、神の世界の不完全な影であるので、転写という聖性維持のための規範を棄却すると、理論上神の世界を自在に変造できてしまい神の真の姿を毀損するという恐れから、偶像を作することを厳しく禁じた。
- ④ 人の手で作った聖像が偶像と同等の聖性を有することを容認すれば、宗教的権威とその主題が分裂分散するので、偶像が神の世界の不完全な影でしかない、価値がないとして偶像を指弾した。
- ⑤ 人の手で作った像(偶像)は、現実世界の存在であり事実上神の世界を反映しておらず、教義の規定する「神の世界の不完全な影としての現実世界」を冒瀆する恐れがある。その危険から偶像を作することを厳しく禁じた。

(2) 空欄 イ に入る文章として最も適切なものを次の①～⑤より選べ。 21

- ① 「窓」が必要のない宗教的背景があつたからである。つまり、聖書で暗示される神の領域と人間の領域の間の深淵ともいふべき境界が日本の宗教観では弱く、人の手で作つた像自体に神性が宿るように、神域と現実世界が重なりあつて存在している、という暗黙の前提の故である。
- ② 仏教の「仏像は神性を宿さない」という教えと、キリスト教の「窓」の概念とが競合したからである。つまり、この競合を解決しようと聖画を改変するうちに、「人の手を経てはならない」という規範を逸脱した故である。
- ③ 「窓」が必要である宗教的背景があつたからである。つまり、仏教等で暗示される仏の領域と人間の領域の間の深淵ともいふべき境界が日本の宗教観にはあり、神域と現実世界が交わりなく存在している、という暗黙の前提の故である。
- ④ 「神」が必要でない宗教的背景があつたからである。つまり、聖書で暗示される神の領域と人間の領域の間の深淵ともいふべき境界が日本の宗教観では弱く、神域にある神と人間は同等であるとの暗黙の認識の故である。
- ⑤ キリスト教の神の依代が必要である宗教的背景がなかったからである。つまり、聖書で暗示される神の領域と人間の領域の間の深淵ともいふべき境界は存在するが、人々が依代なしに心の中で神の姿にふれ、宗教的目的に達することが慣習として根づいていた故である。

問十 本文中の 線あゝおのカタカナを漢字にしたときと同じ漢字が使われるものを、次の各群の①～⑤からそれぞれ一つずつ選べ。

あ ジュンレイ 22 ① 今月ゲジュンに渡欧する。 ② 新しい環境にジュンノウする。 ③ ジュンスイな物質。 ④ 新年度からジュン教授となった。 ⑤ ジュンシ船で航海する。 ① キオウシヨウに悩まされる。 ② 罪悪感がキハクである。 ③ 市場のシンキ開拓。 ④ お不動さまにキガンする。 ⑤ キブツ破損で書類送検。	い キトウ 23 ① 解決のタンシヨをつかむ。 ② シヨメイを求める。 ③ 上司にタイシヨをお願いする。 ④ シヨジキンは80円だった。 ⑤ 会はシヨハンの事情で中止となった。 ① 解決のタンシヨをつかむ。 ② シヨメイを求める。 ③ 上司にタイシヨをお願いする。 ④ シヨジキンは80円だった。 ⑤ 会はシヨハンの事情で中止となった。	う ユイシヨ 24 ① 解決のタンシヨをつかむ。 ② シヨメイを求める。 ③ 上司にタイシヨをお願いする。 ④ シヨジキンは80円だった。 ⑤ 会はシヨハンの事情で中止となった。 ① 解決のタンシヨをつかむ。 ② シヨメイを求める。 ③ 上司にタイシヨをお願いする。 ④ シヨジキンは80円だった。 ⑤ 会はシヨハンの事情で中止となった。
--	---	--

- え センリツ
- 25
- お カコク
- 26
- ① 選手としてセンバツされる。
 - ② センダツに学ぶ。
 - ③ アッセン収賄罪で検挙される。
 - ④ センジョウ降水帯の発生による大雨。
 - ⑤ センザイ意識を呼び出す。
 - ① 処分はクンコクで済ませた。
 - ② あの人はコクスイ主義者だ。
 - ③ 弱点をコクフクする。
 - ④ 彼はチコクの常習犯である。
 - ⑤ そこまでコクヒョウしなくても。

以下の問題〔Ⅱ〕と〔Ⅲ〕は選択問題です。どちらかを解答してください。〔Ⅱ〕と〔Ⅲ〕を両方解答した場合は、高得点の方を合否判定に使用します。

〔Ⅱ〕 次の文章を読んで、後の問に答えよ。なお、広井（一九九四）のような「人名（西暦）」の表記は文中で引用された文献を示している。

AIのコンセプト自体は一九五〇年代にさかのぼるが、「はじめに」で八〇年代にちよとしたブームがあったと述べた。もちろんAIブームと言っても、当時からAIへの「過大な期待」に対する懐疑論も根強くあり、たとえばそうした代表的著作の一つが、哲学者ヒューバート・ドレイファスの『コンピュータには何ができないか——哲学的人工知能批判』（原著一九七二年）などだった。

かくいう私自身も、もともと（科学）哲学専攻ということもあり、AI万能論のような議論には距離を置いていた。（中略）ここで多少哲学的な議論を行うと、私たちが世界を見る時、そこに私たちは様々な「意味」を同時に認識しているのであり、単なる情報の無機的な集積を見ているのではない。

では、そうした世界の「意味」はそもそも一体何に源泉をもつのかということを考えて、それは私たち人間が生命を持ち、したがって「生存」にとって価値があったり重要であったりするものを世界の中から切り取って、あるいは無数の情報の中から序列づけて選別的に把握しているからであり、そこに世界の「意味」や一定の安定した秩序が生まれるのである（派生して、他者の認識や他者との情緒的な関わりなども）。

A 「世界」の「意味」性は、その根源をたどれば生命にたどりつく。

一方、生命を持たないコンピュータは、以上のような情報の「意味づけ」ということがないため、情報の量的処理のスピー

ドやメモリーの容量に関する能力は人間よりはるかに高いが、人間にとつては自明であるようなごく基本的な日常的動作ができないなど、結局のところ重要な場面で十分な力を発揮することができない(広井一九九四参照)。

当時から、この種の議論は様々な形で存在していた。そして、一時過剰なまでのAI万能論が言われた反動もあつてか、大きく言うと、その時代に続く九〇年代以降、AIに関する議論は一時に比べて若干停滞していたというのが大まかな流れだったと思う。

B 一概にそうは言えない。すなわち上記のように、かりにAIが人間には及ばない様々な限界を有するのだとすれば、いわば逆手をとって、AIと人間(ないし生命)を「融合」させていけばよいではないか。そして、AIのすぐれた面(上記のような情報処理能力の速さや記憶容量の大きさ)と人間のすぐれた面(生存への志向とそこから派生する世界の「意味」づけ、あるいは他者との共感能力等々)を組み合わせれば、いわば「最強の存在」——それを「人間」と呼ぶかどうかは別として——が生まれるはずではないか。

これが他でもなく「ポスト・ヒューマン」の思想の一部につらなることになる。

一方、このテーマにはもう一つの重要な局面がある。それは「意識の共有(ないし共同性)」という話題であり、そしてそこから派生する、端的に表現すれば「現実とは脳が見る(共同の)夢か」という問いにくい世界観をめぐる議論である。

人間の意識あるいは「世界」というものが、個体あるいは個人によつて独立に成り立つものではなく、他者との相互作用を基盤としてはじめて生成する、本来的に「共同」的なものであるという理解は、哲学の分野においては以前からよく議論されてきた。個人的な述懐を含めて記せば、学生時代に私が大きな影響を受けた哲学者である廣松渉が「共同主観性」という言葉で論じていたのもこのテーマであり、それは個人や個体を独立自存のものとしてとらえる近代的なパラダイムへの批判という性格をもつものでもあつた(たとえば廣松(一九七二))。

実はこうした議論は、最近脳研究の分野で話題になっている「ソーシャル・ブレイン(社会脳)」のテーマと実質的に共通する性格のものである(藤井(二〇〇九)等参照)。ソーシャル・ブレインの議論とは、人間の脳が現在のようなかたちで高度に発達

した過程において、他者あるいは他個体との(情緒面を含む)相互作用が決定的に重要な役割を果たしたと理解するものである。これは「人間の意識は、それ自体の成立において他者との相互作用が不可欠の基盤であり、その意味において本来的に「共同的なものである」とする先の共同主観性論と共鳴することになる。

そして興味深いことにこのようなテーマは、近年の映画などで、その広がりによりリアルに感じさせる形で展開していると言えるだろう。すぐに思い浮かぶのはやはり『マトリックス』(一九九九年)であり、最近ではレオナルド・ディカプリオが主演し渡辺謙も登場した『インセプション』(二〇一〇年)である。これらに共通しているのは、何らかの方法で「意識」(あるいは夢)の共有ということを行い、その「世界」の中で人々がまた相互作用しつつ行動するという点だ。『インセプション』ではそれがさらに複雑化し、「夢の中の夢」、そしてさらにその中の(共同の)夢という具合に、そのようにして共有される「意識(または夢)」がいわば重層化ないし多次元化している。

こうして見ると、これらの映画のモチーフが、先ほどの「共同主観性」論や「ソーシャル・ブレイン」論の世界観と親和的であるのは明らかなことだろう。

C 、ここで自ずと出てくる自然な疑問は、「⁴」のように考えていくと、実は私たちが生きているこの「現実」の世界それ自体が、共同で見ている「夢」なのではないか」という疑問である。

通常、夢と現実の境界あるいは相違は何かという点と、前者は個人に完結したものであり(＝「主観的」、後者は個人を越えて社会的なものである(＝「客観的」と考えられている。しかし、それではこの世界そのものが、「複数の個人によつて共有された意識」なのだとしたら、言い換えれば「ソーシャル・ブレイン」論が主張するように、複数の脳によつて共有された「世界」なのだとすれば、それは「夢」なのか「現実」なのかという疑問である。

これは文字通り「古くて新しい」問いであり、実際このような関心は、今から二〇〇〇年以上前に書かれた中国の『莊子』の中の、有名な「胡蝶の夢」^(注)において既に論じられている。

同時にこの議論は、現実的な話題として、経済における「パブル」^(注)とはそもそも何か——それは「幻想」なのか「現実」なのか

——といった論点を含めて、本書の中のテーマと様々な次元で関係することになる。ポイントだけをここで記すと、ここでは「まず最初に脳があつて世界が生まれるのではなく、世界があつてその一部に脳が生まれ、そこから意識」世界が生まれるのであつて、その逆ではない」というのが重要な視点になるだろう（しかしここにはある種の循環が含まれている）。

もう一つ、これに関連して「二つのソーシャル・ブレイン」という話題を提起しておきたい。近年の脳研究でのソーシャル・ブレイン論は、人間の意識の原初の成立に関わるもので、先ほどから論じているように哲学などでの共同主観性論なども重なり、したがつて、それはいわば「コモン・ブレイン（共同脳）」と呼んでもよいものである。つまりそれは「近代的な個人」（＝独立した、反省的な意識をもった個人）に対してそれに「先立つ」ものである。

D、これに対し、現在ではインターネットやSNSなどが発達し、独立した個人と個人の間で、ある種の自覚的で「ソーシャル」な「意識の共有」——文字通り「電脳空間」——が生成している。

この両者は当然はつきりと区別されるべきで、ここではこれを「二つのソーシャル・ブレイン」と呼んでみたい。第一のソーシャル・ブレイン（ないしコモン・ブレイン）は、進化の過程における人間の原初の「意識」の成立そのものに関わるものであり、第二のソーシャル・ブレインは、近代の後半期たる現代において、インターネット等の情報空間が生成する中で生じるものだ。

もちろん後者が今後どのような展開を見せるか——そもそもそれをソーシャル・ブレインとか「意識の共有」といった言葉で把握してよいかどうかを含めて——なお未知にとどまつており、それは本書での「電脳資本主義そして超（スーパー）資本主義 vs ポスト資本主義」というテーマともつながることになる。

（広井良典『ポスト資本主義——科学・人間・社会の未来』による）

（注1）『マトリックス』——一九九九年公開の米国制作のSFアクション映画。

（注2）『インセプション』——二〇一〇年より公開された米国・英国制作のSFアクション映画。

（注3）胡蝶の夢―現実と夢とが区別できないことのたとえ。

（注4）バブル―「バブル経済」の略。不動産や株式などの資産価格が实体经济とかけ離れて高騰すること。

問一 本文中の空欄 **A** へ **D** に入る最も適切な語を、次の各群の①～⑤からそれぞれ一つずつ選べ。

- | | | | | | | | | | | | |
|----|----------|---|------|---|------|---|------|---|------|---|---------|
| A… | 1 | ① | つまり | ② | むしろ | ③ | しかし | ④ | ただし | ⑤ | あるいは |
| B… | 2 | ① | よって | ② | しかも | ③ | しかし | ④ | なぜなら | ⑤ | そこで |
| C… | 3 | ① | たとえば | ② | ところが | ③ | つまり | ④ | そして | ⑤ | にもかかわらず |
| D… | 4 | ① | 一方 | ② | かえって | ③ | もちろん | ④ | しかるに | ⑤ | だから |

問二 本文中の——線1「AI万能論のような議論には距離を置いていた」のは、筆者が当時のコンピューターには何ができないと考えていたからか。その理由として最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選べ。 **5**

- ① 筆者は、コンピューターには、大量の過去の実績データを処理して未知の数値などを予測することができないと考えていたから。
- ② 筆者は、コンピューターには、与えられた状況や問題を意味づけたり、無数の情報の中から選別的に把握して適切な解を導き出すことができないと考えていたから。
- ③ 筆者は、コンピューターには、膨大な音データを記憶して、個人を特定することができないと考えていたから。
- ④ 筆者は、コンピューターには、与えられた大量のデータを短時間で、すでにあるグループのどれかに分類することができないと考えていたから。
- ⑤ 筆者は、コンピューターには、大量の物体の特徴や、人間の体形や顔などの特徴を記憶し、認識することができないと考えていたから。

問三 本文中の——線2「AIと人間(ないし生命)を融合」させていけばよい」とあるが、その具体例として最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選べ。 6

- ① 自らの意識をAIに転移して不死の意識となる。
- ② 人間が法律や病気に関する質問をしたらAIが適切に回答できるようにする。
- ③ コンピューターでつくられた仮想現実と現実世界が区別できない、夢と現実とがあいまいな状況をつくる。
- ④ 事故などで手を切断した人が、様々な動作に対応した筋肉信号(周波数や振幅パターンなど)をあらかじめ記憶し、学習した義手を装着して、以前と同じような生活を送れる。
- ⑤ 人間をロボット化して身体的、認知的能力を格段にパワーアップさせる。

問四 次の文章は、本文中の——線3「ソーシャル・ブレイン(社会脳)」に関連した学阪直行編『社会脳シリーズ』の「刊行にあたって」(学阪直行著の一部)である。この文章を読んで、続く(1)～(2)の間に答えよ。

人類の進化とともに社会脳は、その中心的な担い手である新皮質(とくに前頭葉)のサイズを拡大してきた。霊長類では群れの社会集団のサイズが脳の新皮質の比率と比例するといわれるが、なかでもヒトの比率は最も大きく、安定した社会的つながりを維持できる集団成員もおよそ150名になるといわれる(Dumber 2003)。I というが、この程度の集団成員に達すれば新しい創発的アイデアも生まれやすく、新たな環境へのa も可能になり、b の複雑化にも対応できるようになる。一方、社会脳は個々のヒトの発達のなかでも形成される。たとえば、幼児は個人差はあるが、およそ4歳以降に他者の心を理解するための「心の理論(theory of mind)」をもつことができるようになるといわれているが、これはこの年齢以降に成熟してゆく社会脳の成熟と関わりがあるといわれている。他者の心を理解したり、他者と共感するためには、他者の意図のc ができることが必要であるが、このような能力はやはりこの時期にはじまる前頭葉の機能的成熟がかかわるのである。志向的意識やワーキングメモリがはたらきはじめる時期とも一致するのである。オキシトシンやエンドルフィンなどの分泌性ホルモンもd はぐくむ脳の成熟を助け、社会的なきずなを強めたり、安心感をもたらすことで社会脳とかかわることも最近わかってきた。

社会脳の研究は、このような自己とe をつなぐきずなである共感がなぜ生まれるのかを社会における人間とは何かという問いを通して考える。

(1) 空欄 I に入る最も適切なことわざを次の①～⑤から一つ選べ。 7

① 寄らば大樹の陰

② 一人の好士より三人の愚者

③ 船頭多くして船山に上る

④ 三人寄れば文殊の知恵

⑤ 先んずれば人を制す

(2) 空欄 a ～ e に入る最も適切な語句を、次の①～⑨からそれぞれ一つずつ選べ。ただし、一つの選択肢は一度しか使えない。

a .. 8 b .. 9 c .. 10 d .. 11 e .. 12

① 社会

② 人間

③ 他者

④ 相互作用

⑤ 共感

⑥ 推定

⑦ 適応

⑧ 秩序

⑨ 共同性

問五 本文中の――線4「そのように考えていくと、実は私たちが生きているこの「現実」の世界それ自体が、共同で見ている

「夢」なのではないか」という疑問である」について、次のア～オのうち、筆者の主張に合致するものには①を、合致しないものには②を、それぞれマークせよ。

ア 人間は何らかの形で他者と関わって生きていることから、その人間の意識は他者との相互作用において社会的に形づくられており、人間の意識は本質的に社会的である。 13

イ 夢は個人に関係したものであり、現実とは個人を超えて社会的なものであるから、他者と相互作用を行なっても個人の夢を共有することはできない。 14

ウ 夢をもつというのは、近代以降に出現した現象である。近代的パラダイムにおいては自己の目的達成がすべてであることから、他者への関心や意識、夢を共有することはない。 15

エ 意識はその人のものの見方や考え方によって異なる現れ方をすることから、元来主観的なものであり、すべての人が同じ意識を共有することは不可能である。 16

オ 人間の意識は人間の誕生とともに最初からあるのではなく、成長が進んだ段階で現れてくるものであるから本来的に共同性のものであるといえる。 17

問六 次の①～⑤のうち、本文で述べられている内容に合致するものを二つ選べ。なお、解答の順序は問わない。

18

19

① 二〇世紀は科学技術の発展、とくに一九八〇年代以降の情報関連テクノロジーの発展が社会や経済、さらには人間のあり方に大きな影響を与えてきたが、二一世紀においてもより一層の技術革新が望まれる。

② 人間の脳とAIを融合させることは、人間の能力の拡張をもたらし「意識の共有」を促進する。

③ 人間の意識は他者との相互作用を基盤としているが、集団での共同性を実現させるためには意識の共有や他者との情緒的な関わりなどが必要である。

④ 現在のインターネットやSNS等の電腦空間における、独立した個人と個人の間の、ある種の自覚的でソーシャルな「意識の共有」はコモン・ブレインと呼ぶにふさわしいものである。

⑤ ソーシャル・ブレイン論においては、世界は複数の個人によって共有された意識であるがゆえに、世界は夢なのか現実なのかという疑問が生じる。

〔Ⅲ〕を解答する場合には、必ず解答用紙(マークシート)の〔Ⅲ〕に記入してください。
誤って解答用紙の〔Ⅱ〕に記入した場合には、0点となるので注意してください。

〔Ⅲ〕 次の文章を読んで、後の問に答えよ。なお、次の文章は女房たちが和歌集について語り合う場面から始まっている。

「あはれ、折につけて、三位入道のやうなる身にて、集を撰えらびはべらばや。『千載集』こそは、その人のしわざなれば、いと心にくくはべるを、あまりに人にところを置かるにや、さしもおぼえぬ歌aどもこそ、あまた入りてはべるめれ。何事もあいなくなりゆく世の末に、この道ばかりこそ、山彦の跡絶えず、柿の本の塵尽きず、とかや承りはべれ。まことに、聞き知らぬ耳にもありがたき歌どもはべるを、主の、ところにはばかり、人のほどに片去る歌どもにはかき混ぜず撰えり出でたらば、いかにいみじくはべらむ。いでや、いみじけれども、女ばかり口惜くちしきものなし。昔より色を好み、道を習とふ輩多かれども、女の、いまだ集など撰ぶことなきこそ、いと口惜しけれ」と言へば、

「必ず、集を撰ぶことのいみじかるべきにもあらず。紫式部が『源氏』を作り、清少納言が『枕草子』を書き集めたるより、さきに申しつる物語ども、多くは女のしわざにはべらずや。されば、なほ捨てがたきものにて我ながらはべり」と言へば、

「さらば、などか、世の末にとどまるばかりの一ふし、書きとどむるほどの身にてはべらざりけむ。人の姫君、北の方などにて隠ろへばみたらむはさることにて、宮仕人としてひたおもてに出で立ち、なべて人に知らるばかりの身をもちて、『このころはそれこそ』など人にも言はれず、世の末までも書きとどめられぬ身にてやみなむは、いみじく口惜しかるべきわざなりかし。昔より、いかばかりのことかは多かれど、あやしの腰折れ一つ詠みて、集に入ることなどに女はいとかたかめり。まして、世の末まで名をとどまばかりの言葉、言ひ出で、し出でたるたくひは少なくこそ聞こえはべれ。いとありがたきわざなんめり」など言へば、例の若き人、

「さるにても誰々かはべらむ。昔、今ともなく、おのづから心にくく聞こえむほどの人々思ひ出でて、その中に、少しもよからむ人のまねをしはべらばや」と言へば、

「ものまねびは人のすまじかなるわざを。淵に入りたまひなむず」と言ひて笑ふ。

「女御、后は、心にくく、いみじきために書き伝へられさせたまふばかりのは、いとありがたし。まして末々はことわりなりかし。色を好み、歌を詠む者、昔より多からめど、小野小町こそ、みめ、容貌も、もてなし、心遣ひよりはじめ、何事も、いみじかりけむとおほゆれ。

色見えて移ろふものは世の中の人の心の花にぞありける

P 佐びぬれば身をうき草の根を絶えて誘ふ水あらば往なむとぞ思ふ

Q 思ひつつ寝ればや人の見えつらむ夢と知りせば覚めざらましを

と詠みたるも、女の歌はかやうにこそとおぼえて、そぞろに涙ぐましくこそ」と言へば、また、

「老いの果てこそ、いとうたてけれ。さしもなき人も、いとさまであることやははべる」と言ふ人あれば、

「それにつけても、憂き世の定めなき思ひ知られて、あはれにこそはべれ。屍になりて後まで、

秋風の吹くたびごとにあな目あな目小野とは言はじ薄生ひけり

など詠みてはべるぞかし。広き野の中に薄の生ひてはべりける、かく聞こえたるなりけり。いとあはれにて、その薄を引き捨てはべり A 夜の夢に、かの頭をば、『小野小町と申す者の頭なり。薄の、風に吹かるるたびごとに、目の痛くはべるに、引き捨てたまひたるなむ、いとうれしき。この代はりには、歌をいみじく詠ませたまつら B』と見えてはべりけるとかや。かの夢に見たる人は、道信中将と人の申しはべるはまことにや。誰かは、さることあるな。色をも香をも、心に染むとならば、かやうにこそあらまほし C 「と言へば、また、人、⁵すべて、あまりになりぬる人の、そのままにてはべるためし、⁶ありがたきわざにこそあ D 檜垣の子、清少納言は、一条院の位の御時、中関白世を治らせたまひけるはじめ、皇太后宮の時めかせたまふ盛りにさぶらひたまひて、人より優なる者とおほしめされたりけるほどの

ことどもは、『枕草子』といふものに、みづから書きあらはしてはべれば、こまかに申すに及ばず。歌詠みの方こそ、元輔が娘にて、さばかりなりけるほどよりは、すぐれざりけるとかやとおほゆる。『後拾遺』などにも、むげに少なう入りてはべるめり。みづからと思ひ知りて、申し請ひて、さやうのことには交じりはべらざりけるにや。さらでは、いといみじかりけるものにこそあめれ。」

(『無名草子』による)

(注1)三位入道―藤原俊成(一一一四―一二〇四)のこと。定家の父であり、『千載和歌集』の撰者。

(注2)道信中将―藤原道信(九七二―九九四)のこと。歌人で中古三十六歌仙の一人。

(注3)檜垣―生没年不詳。平安中期の伝説的女流歌人で筑紫白川の遊女という。清少納言の父、清原元輔らと交流があった

とされる。

(注4)一条院―一条天皇(九八〇―一〇一一)のこと。在位九八六―一〇一一。円融天皇の第一皇子。

(注5)中関白―藤原道隆(九五三―九九五)のこと。父兼家の死後に摂政関白となった。定子の父。

(注6)皇太后宮―皇后宮の誤りか。一条天皇の皇后定子のこと。

(注7)元輔―清原元輔(九〇八―九九〇)のこと。清少納言の父で三十六歌仙の一人。

問一 本文中の 〓 線 a ～ d の語句の意味として最も適切なものを、次の各群の ① ～ ⑤ からそれぞれ一つずつ選べ。
さしもおほえぬ歌… 1

- ① それほどの内容が込められた歌 ② それほどとは思えない歌 ③それほど技巧的でない歌
④ それほどの自信がない歌 ⑤ それほどまで記憶に残った歌

〓 2 ① 面白味がなく ② 正しくなく ③ 大げさに ④ 享乐的に ⑤ 情緒がなく

〓 3 a 〓 あやしの… ② 不都合な ③ 卑しい ④ 神秘的な ⑤ つまらない

〓 4 d 〓 心にくく… ① 怪しく ② 恐ろしく ③ 奥ゆかしく ④ 妬ましく ⑤ 楽しく

問二 本文中の 〓 線 1「ところにはばかり」は、誰の何に対する態度か。最も適切なものを、次の ① ～ ⑤ から一つ選べ。

5

- ① 撰者が、歌を選ぶ時間帯に配慮する態度。
② 撰者が、歌を選ぶ場所に配慮する態度。
③ 撰者が、歌人の地位に配慮する態度。
④ 歌人が、撰者の地位に配慮する態度。
⑤ 歌人が、歌を詠む場所に配慮する態度。

問三 本文中の 〓 線 2「集を撰ぶことのいみじかるべきにもあらず」と女房が述べた理由として最も適切なものを、次の ① ～ ⑤ から一つ選べ。

6

- ① 女でもよい歌を詠む人々が多いのだから、歌集を編纂することだけがすばらしいというわけではないと思っているから。
② 女でも歴史に精通している人々が多いのだから、歌集を編纂することだけが大変な仕事だというわけではないと思っているから。
③ 女でもよい歌を詠む人々が多いのだから、歌集を編纂することだけが大変な仕事だというわけではないと思っているから。
④ 女でも好評を得ている物語や随筆を書けるのだから、歌集を編纂することだけがすばらしいというわけではないと思っているから。
⑤ 女でもよい物語や随筆を書いたほうが立派なのだから、歌集を編纂することだけがすばらしいというわけではないと思っているから。

問四 本文中の 〓 線 3「捨てがたきもの」とは何か、最も適切なものを、次の ① ～ ⑤ から一つ選べ。

7

- ① 女であること。 ② 色を好み、道を習うこと。 ③ 歌を詠むこと。
④ 物語を作ること。 ⑤ 歌集を編纂すること。

問五 本文中の 〓 線 4「ありがたきわざ」とは何か、最も適切なものを、次の ① ～ ⑤ から一つ選べ。

8

- ① 腰折れの歌を詠むこと。 ② 歌集に女の歌が入ること。
③ 歌集に男の歌が入ること。 ④ 後世まで残る優れた歌を女が詠むこと。
⑤ 後世まで残る優れた歌を男が詠むこと。

問六 本文中の和歌P「わか侘びぬれば身をうき草の根を絶えて誘ふ水あらは往なむとぞ思ふ」に使われている掛詞は、何と何が掛けられているか、次の①～⑤から適切な組み合わせを一つ選べ。 9

- ① 「身」と「実」 ② 「憂き」と「浮き」 ③ 「絶えて」と「耐えて」
④ 「水」と「見ず」 ⑤ 「往なむ」と「居なむ」

問七 本文中の和歌Q「思ひつつ寝ればや人の見えつらむ夢と知りせば覚めざらましを」の解釈として最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選べ。 10

① 同じ夢を見たいと思ったので、それができたのだろうか。あの人が見た夢だと知っていたのならば、目を覚まさないに。

② 同じ夢を見たいと思えば、それができるのだろうか。あの人が見る夢を知っていれば、あなたが来るまで目を覚まさないのに。

③ あの人を思いながら眠れば、夢に見ることくらいはできるのだろうか。叶わぬ夢だと分かっている、恋心は覚めることはないのに。

④ あの人を思いながら眠れば、夢に見ることができのだろうか。そうであれば夢だと分かっているても目覚めないのに。

⑤ あの人を思いながら眠ったので、夢に見ることができたのだろうか。夢だと分かっていたなら目覚めなかったのに。

問八 本文中の空欄 A ～ D に入る最も適切なものを、次の①～⑨からそれぞれ一つずつ選べ。

- | | | | | | | | |
|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|
| A ∴ | 11 | B ∴ | 12 | C ∴ | 13 | D ∴ | 14 |
| ① | る | ② | む | ③ | し | ④ | めり |
| ⑤ | けり | ⑥ | ける | ⑦ | けれ | ⑧ | けむ |
| | | | | ⑨ | めれ | | |

問九 本文中の――線5「すべて、あまりになりぬる人の、そのままにてはべるためし」の解釈として最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選べ。 15

① 非常に体が丈夫な人が、その後も健康でありつづける例。

② どのようなところでも一人になる人が、その後も誰にも頼らずに生きていく例。

③ 非常に身分が低い人が、その後もその地位を維持する例。

④ 非常に優秀な人が、その後も優秀さを保つ例。

⑤ どのようなところでも人気がある人が、その後も人気を維持できる例。

問十 本文中の――線6「さやうのことには交じりはべらざりけるにや」の解釈として、最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選べ。 16

① 清少納言が、あまり和歌を詠むことには関わらなかったということ。

② 清少納言が、あまり和歌集の編纂に関わらなかったということ。

③ 元輔が、娘にあまり和歌を詠むことに関わらせなかったということ。

④ 元輔が、娘にあまり和歌集の編纂に関わらせなかったということ。

⑤ 皇后が、あまり清少納言に和歌を詠むことには関わらせなかったということ。

問十一 本文の内容と合致するものを次の①～⑤から一つ選べ。 17

① ある一人の女房は、誰にも付度せず、女が詠んだ歌ばかり集めた和歌集を編纂したいと思っていた。

② 小野小町は、藤原道信の夢に現れて、道信が和歌を上手に詠むことができるようにしたとされている。

③ 清少納言は、藤原道隆が世の中に知られるようになった頃、『枕草子』に自分の素晴らしきを書き綴っていた。

④ 例の若き人は、憎らしい人々を自然と思い出し、彼らのものまねをして鬱憤を晴らそうとした。

⑤ ある一人の女房は、姫君や北の方などとは違って人前に出る仕事をしていたので、注目されることに慣れていた。

問十二 次の空欄 に入る最も適切なものを、次の各群の①～⑤からそれぞれ一つずつ選べ。

勅撰和歌集とは、天皇の^{みんじ}編旨または上皇・法皇の院宣によって編まれた和歌集であり、最初の『から』拾遺和歌集』を『三代集』といい、全体を『』とよぶ。第七番目の勅撰和歌集であり、後白河院の院宣により編纂された『千載和歌集』の代表歌人には、かつて鳥羽院に北面の武士として仕えた がいる。彼の私家集には、『山家集』などがある。

- | | | | | | | | | | | |
|---|---|-----|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|
| X | ① | 万葉集 | ② | 古今和歌集 | ③ | 金葉和歌集 | ④ | 玉葉和歌集 | ⑤ | 詞花和歌集 |
| Y | ① | 八代集 | ② | 十三代集 | ③ | 二十一代集 | ④ | 二十五代集 | ⑤ | 三十六代集 |
| Z | ① | 源俊賴 | ② | 大江匡房 | ③ | 西行 | ④ | 兼好法師 | ⑤ | 北条貞房 |